リハビリテーション科

近森リハビリテーション病院　院長　和田恵美子

リハビリテーション科医局

2022 年 2 月 3 日楠目医師退職。3 階東和田、西松本（専従）、4 階佐田、西山本（専従）、5 階東西日浦（専従）、西青山、6 階東西中山（専従）となった。外来は火曜青山、月水木和田が担当。2 月より書類作成外来を月 2 回金曜日に開始（二週目青山、三週目和田）。
2022 年 12 月 9 日～3 階東和田／佐田、西松本、4 階東和田、西山本に変更となった。
2022 年の学生実習は高知大学 12 名（6 年生 9 名、5 年生 3 名）、大阪医科薬科大学 2 名（6 年生）、群馬大学 1 名（5 年）
8 月 29 日～9 月 30 日研修医実習（中嶋桃子医師）

リハビリテーション病院

4 月に診療報酬改正があり、入院料 1 を提出（4 月 4.6 病棟）（5 月　3.5 病棟）
8 月よりコロナ対応発熱外来届け出、9 月 2 日より 4 東病棟にてコロナ後方支援病床を開始した。9 月 6 日～受け入れ開始。2023 年 3 月末まで運用。

年間退院患者疾患内訳

退院患者数の総数は 663 名と減少している。急性転化率、平均年齢は大きな変化なし。減少傾向であった平均在院日数は 81.2 日と 2019 年より横ばいであった。（図 1）疾患内訳で脳血管疾患は 453 名、75%であり、減少傾向である。脳卒中の減少が総数に影響している。（図 2）

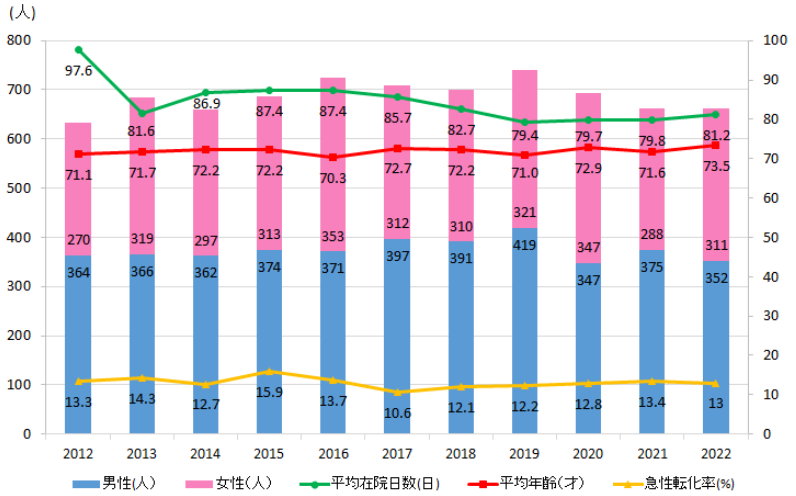
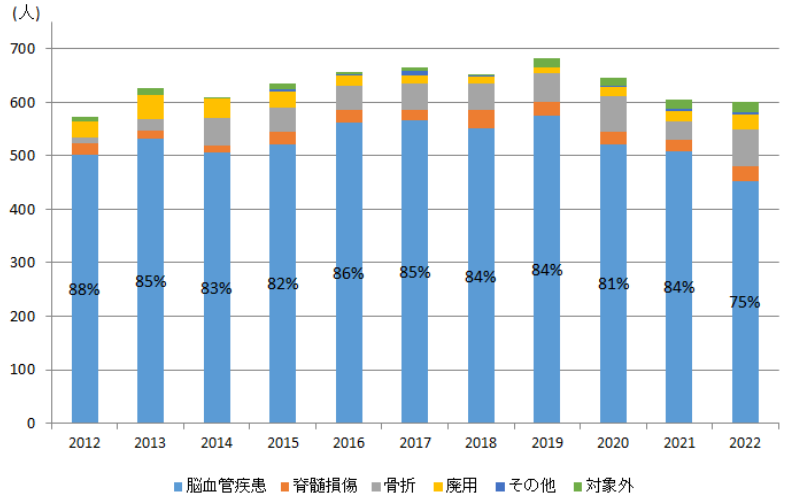


図1　各年の1月1日～12月31日退院患者より集計

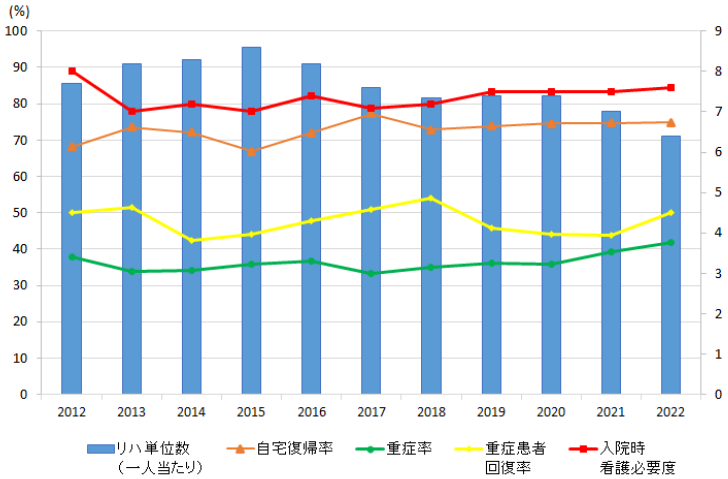


	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
脳血管疾患	502	531	505	522	562	566	551	574	522	509	453
脊髄損傷	22	16	15	23	23	20	35	27	23	21	28
骨折	9	22	51	45	45	49	48	54	66	33	67
廃用	31	45	36	30	21	14	13	10	17	20	28
その他	0	0	0	4	2	9	4	0	2	5	5
対象外	8	12	3	10	3	7	2	18	16	17	20
総数	572	626	610	634	656	665	653	683	646	605	601

図2　年間患者疾患内訳（新規入院患者のみ）2011年～2021年

入院時平均看護必要度/重症率/重症患者回復率/リハ単位数（平均）/自宅復帰率

入院時看護必要度は 7.6 で変化なし。重症率は診療報酬の変更の影響もあり 41.9 と 40%を超えた。重症患者回復率も 50%を維持した。職員数の減少に伴い、またコロナの影響も認めリハ単位数は 7 を切り、6.4 となった。自宅復帰率は 74.8%であった。（図３）



	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
入院時看護必要度	8.0	7.0	7.2	7.0	7.4	7.1	7.2	7.5	7.5	7.5	7.6
重症率	37.8	33.9	34.1	35.9	36.8	33.4	35.1	36.1	35.9	39.2	41.9
重症患者回復率	50.0	51.4	42.5	44.1	47.9	50.9	54.1	45.7	44.2	43.8	50.0
リハ単位数（一人当たり）	7.7	8.2	8.3	8.6	8.2	7.6	7.3	7.4	7.4	7.0	6.4
自宅復帰率	68.2	73.5	72.2	66.9	72.0	77.3	72.8	73.9	74.5	74.7	74.8
急性転化除外の自宅復帰率	(77.7)*	(84.6)*	(81.9)*	(79.5)*	(82.3)*	(86.4)*	(82.8)*	(84.2)*	(85.5)*	(86.2)*	(86.6)*

図3　各年の1月1日～12月31日退院患者より集計

治療成績

平均年齢は 73.5 歳、入院前期間は 24.3 日。入院期間は 91.4 日。入院時 FIM66.6、退院時 FIM92.3、FIM　gain25.5 と上昇傾向である。FIM 効率は 0.32 と保持できていた。（図４）

	年齢		入院前期間		入院期間		入院時FIM		退院時FIM		FIM gain		FIM効率	
	平均値	中央値	平均値	中央値	平均値	中央値	平均値	中央値	平均値	中央値	平均値	中央値	平均値	中央値
2012年(n=494) 急性転化(71人)	70.6	74	29.6	27	107.8	104	70.1	72	93.6	109	23.6	21	0.22	0.23
2013年(n=533) 急性転化(81人)	70.9	73	26.7	23	89.2	83	74.6	78	97.3	110	22.7	20	0.26	0.26
2014年(n=535) 急性転化(72人)	72.0	75	26.2	22	94.6	89	74.2	77	94.5	107	20.4	19	0.22	0.24
2015年(n=524) 急性転化(100人)	72.1	75	25.8	23	95.6	90	71.6	74.5	93.0	106	22.0	19.5	0.26	0.24
2016年(n=571) 急性転化(82人)	72.3	75	24.8	21	94.3	89	72.3	75	95.3	109	23.1	21	0.29	0.24
2017年(n=592) 急性転化(66人)	71.9	74	21.5	18	90.4	86	74.7	78	98.8	112	24.0	21	0.30	0.27
2018年(n=568) 急性転化(83人)	72.1	75	22.5	18	87.9	87.5	74.9	79	98.9	111	24.0	22	0.32	0.29
2019年(n=588) 急性転化(77人)	71.5	74	22.8	18	86.7	80	72.0	75	94.7	108	22.8	20	0.32	0.27
2020年 (n=551) 急性転化(79人)	72.7	75	21.9	18	86.7	83	71.3	75	96.1	110	24.8	24	0.36	0.33
2021年(n=512) 急性転化(76人)	72.2	74	22.8	18	91.3	88	69.3	72	93.2	108	23.9	21	0.32	0.29
2022年(n=581) 急性転化(76人)	73.5	75	24.3	18	91.4	86	66.6	69	92.3	105	25.5	23	0.32	0.29

図4　各年の1月1日～12月31日退院患者(急性転化を除く)より集計

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
栄養管理を中心としたリハビリテーション加療により全身状態が改善した一例	佐田　七海子 宮越　浩一	第 59 回 日本リハビリテーション医学会学術集会	6 月 23～25 日 神奈川
胃食道逆流性症状に対するブリッジ嚥下訓練の有効性の検討	青山　圭 國枝 顕二郎、重松　孝、和田恵美子、藤島　一郎	第 59 回 日本リハビリテーション医学会学術集会	6 月 23～25 日 神奈川
胃食道逆流症患者に対するブリッジ嚥下訓練の効果	青山　圭 和田　恵美子、國枝　顕二郎、重松　孝、藤島　一郎、大野友久	第 5 回近森会グループ学術集会	8 月 6 日 高知

講演

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
ボツリヌス治療と施注の実際	和田　恵美子	高知県ハンズオンセミナー	10 月 28 日
私の歩んできた道とこれからやりたいこと	和田　恵美子	日本リハビリテーション医学会学術集会スイーツセミナー	11 月 6 日

論文発表・著書

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
Bridge Swallowing Exercise for Gastroesophageal Reflux Disease Symptoms:A Pilot Study	Kei Aoyama,MD Kenjiro Kunieda,MD,phD Takashi Shigematu,MD,PhD Tomohisa Ohno,DDS,PhD Emiko Wada,MD Ichiro Fujishima,MD,PhD	Progress in Rehabilitation Medicine 2022	Vol.7,20220054